

METTS NEWSLETTER

教職課程センター・地域学校教育センター

特集 「課題探求活動」としての学校現場研修

「課題探求活動」として今年度は3校（高等学校2校、中学校1校）で学校現場研修を行いました。1月17日に日本語学科の教職課程3年生8人が東京都立青山高等学校で、英米語学科の教職課程3年生11人が東京都立城東高等学校で、1月28日には両学科の教職課程2年生が文京区立茗台中学校でそれぞれ学校現場研修を行いました。

青山高等学校では、1、2年生の様々な授業を見学しました。どれも、東京都教育委員会から進学指導重点校の指定を受ける有数の進学校ならではの大変充実した内容の授業でした。授業見学終了後、永森比人美校長先生から東京都の教育の特徴や青山高等学校の取り組みについて具体的に説明をしていただきました。東京都の教育については、教員として働く上でとてもやりがいを感じることができる、とのことでした。また、「教員は、生徒たちの成長に直接かかわることができ、自分自身も成長することができる大変やりがいのある仕事である。是非頑張って実際に教員になってほしい」との激励の言葉をかけていただきました。

参加した学生からは「授業のテンポが速く、圧倒された。生徒が集中して取り組んでいる姿が印象的であった。先生のアドバイスがとても的確でさりげなかった」といった声が聞かれ、短時間での訪問ではありましたが、大変有意義な研修の機会となりました。



城東高等学校は、東京都教育委員会から進学指導推進校や英語教育研究推進校などの指定を受けた学校です。オーラルコミュニケーションⅡの授業を1時間見学しました。授業後には、担当教諭より年間指導計画・単元指導計画に基づき1単位時間の授業のねらいを明確にしていること、生徒の声に耳を傾け、興味や関心、ニーズを把握して指導に臨むことなど授業作りを伺うことができました。浅見浩一郎校長先生からは、教員1年目は学習指導力を磨くことが大事であるというメッセージをいただき、発問の工夫や学習形態、個の理解に応じた対応などの指導の具体例を紹介していただきました。

参加した学生からは、「自分が実際に教員になった時を想定しながら、より良い授業をつくるアイデアがもらえた」「生徒のニーズを考えた授業をつくることも大切だが、自分の思い描く授業像をもっておくことも大切であると感じた」「自分では思いつかないスライドの内容や工夫点を学ぶことができた」といった感想が寄せられました。

茗台中学校では、5校時は1年生の理科、英語、2年生の国語、保健体育などの授業を見学しました。6校時は1年生各学級の道徳の授業に参加し、生徒の小グループに入り、テーマについて生徒とともに考え、議論しました。いずれも経験豊かな中堅からベテランの先生方が担当する授業であり、電子黒板や一人1台端末を活用して協働的な学びと個別最適な学びのバランスをとっていること、教師が生徒一人一人を掌握しているからこそできる生徒とのやり取りの妙など、授業に必須の指導技術を実際に見て学ぶことができました。

参加した学生からは、「教育実習前に、授業に実際に参加することができ、学ぶことが多い良い機会であった」「自分の中学の時と比べて対話的な授業展開が行われていたことに驚いた」などの感想が寄せられました。学生にとって「学校とは?」、「授業とは?」という根源的な問いについて考察する機会となったようです。



教職ボランティア活動報告会

1月20日、2024年度教職ボランティア活動報告会が行われました。参加した学生は以下の8人です。池内夏美さん(105時間)、小川翔太郎さん(67時間)、喜多功祐さん(130時間)、高木由紀さん(127時間)、富樫美智雄さん(68時間)、仲田未羽さん(74時間)、布施名菜さん(100時間)、渡辺ももさん(111時間) ※()は、ボランティアの活動時間。

「ボランティアは大学4年間を通して一番熱心に取り組めました」「活動した経験が教師になりたいという気持ちを一層高めてくれた」「最初は何をやっているかわからなかったけど、勇気を出してやってみることが大事だと感じた」「勉強に苦手意識をもつ小中学生の気持ちが理解できた」「ボランティア活動によって将来教師としてのスキルが上がった気がする」など、教職ボランティアを通して学んだことを参加した学生がそれぞれ報告してくれました。報告者からの共通のメッセージ「教師を目指す人には絶対に取り組んでほしい」。このバトンが後輩学生の皆さんにしっかり受け継がれるよう期待しています。



池内夏美さんの報告



報告者のみなさん

千葉県教員採用試験説明会 及び合格体験談発表会

1月15日、千葉県公立学校教員採用説明会及び千葉県教員採用選考合格者による合格体験談発表会を開催しました。教職課程を履修する2、3年生約20人が参加しました。まず、講師として千葉県教育庁の小山淑朗管理主事をお招きし、千葉の教員の魅力、求める教員像、福利厚生、働き方改革、今年度の選考方法の変更点、出題内容等について詳しく説明していただきました。その後、千葉県の教員採用選考に合格した、英米語学科4年の高木由紀さん、古川湖菜さん、安田結貴さんが、合格に至るまでの体験を語ってくれました。内容は、役に立った勉強法と避けたい勉強法、準備を始めた時期、実際に受験して気付いたことや気になったこと、ためになったMETTSのサポート、反省や感想などとても具体的で参考になることばかりでした。最後に、教採に向けての心構えとして、「がむしゃらに」「謙虚に」などといったアドバイスと激励の言葉をもらい、閉会となりました。参加した学生は、「採用選考の具体的な評価基準などを聞くことができた」「教員になってからのことが具体的に想像しやすくなった」「自分では聞きにくい情報や、今まで知らなかったことを詳しく説明してくださり、多くの情報を得ることができた」などと感想を述べていました。



足立区栗島中学校での異文化交流会

1月31日、足立区との教育連携協定事業の一環として、本学の留学生6人が栗島中学校で中学2年生65人と英語による異文化交流会に参加しました。今回参加した6人の留学生は、中国、フィリピン、ベトナムの計3か国出身でした。教職課程センター・地域学校教育センターの金子義隆教授が主に企画・運営し、山本聖志地域学校教育副センター長と共に引率をしました。

留学生6人は、3時間目と4時間目の英語の授業に参加し、中学生の4、5人一組のグループに一人ずつ加わり、お互いに自己紹介をした後で留学生は持参してきた写真などを使って自国の文化も紹介しました。そして、Kahoot(教育用ゲームのプラットフォーム)を使って世界のさまざまな国や文化に関する英語の設問にグループで協力して取り組みました。中学生も留学生も英語でのコミュニケーションを楽しみました。

参加した中学生は「海外の方とコミュニケーションをとる貴重な体験ができ、とても楽しかった」と「このような機会を設けていただきありがとうございました。留学生とまた交流できることをとても、とても、とても楽しみにしています！！！！！！」などと答えてくれました。



アゴラ活用状況(人)

1月	387
2018年からの延べ数	69,476